

移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を以下に示します。
よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

圃場への出入り

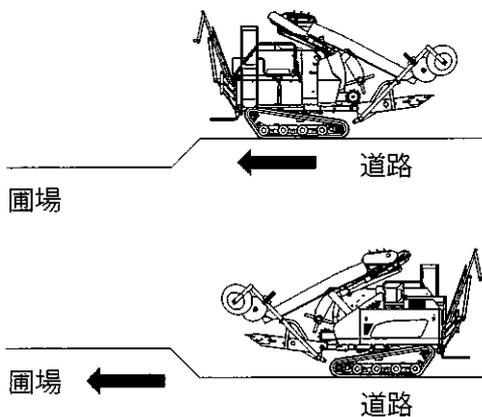
⚠ 危険

 傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は乗車しないでください。
禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 警告

 圃場に入るときは、必ず速度を下げて、掘取りコンベアを地面と接触しない程度に下げて、圃場に対して直角に進んでください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。
必ず実行 機械は構造上、重心が前にあります。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



 傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

移動

⚠ 危険

 高速運転時、急発進・急ブレーキ・急旋回はしないでください。
禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 傾斜地では、機体傾き自動スイッチを絶対に「入」にしないでください。
禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 ブザーが鳴るような傾斜地では、転倒の危険があるので走行しないでください。機械には、傾斜警報装置が装備されています。一定角度（約14°）以上の傾斜になるとブザーで危険を知らせます。
禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 ブザーが鳴ったら作業を中止し、機械が水平になる場所に移動してください。
必ず実行 機械が水平になるとブザーは止まります。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 傾斜地での走行は、速度を下げ安全に運転してください。平坦地に比べ、特に危険です。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 傾斜地の上りは前進で行い、下りは後進で走行してください。
必ず実行 機械は構造上、重心が前にあります。収穫部を降ろし、重心を下げるのも安全走行の有効な手段です。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

 傾斜地や悪路では機械に乗車せず、歩きながら運転してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

使
い
か
た

移
動
・
圃
場
へ
の
出
入
り

運転のしかた

ここでは運転のしかたについて詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

乗車について

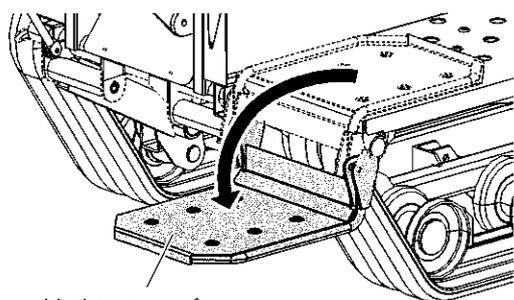
警告



運転席以外の場所には乗車しないでください。

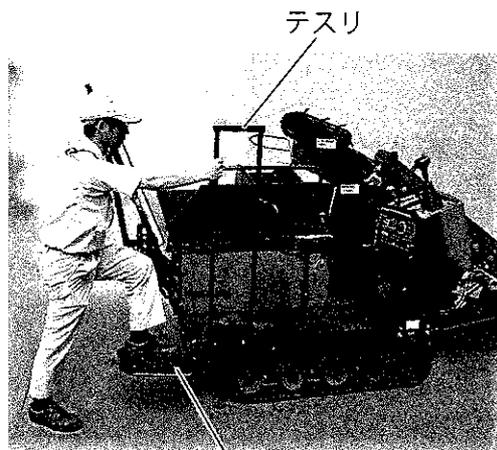
禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 補助ステップを後方に開きます。



補助ステップ

- 2 テスリを持ち、補助ステップを使用して乗車します。



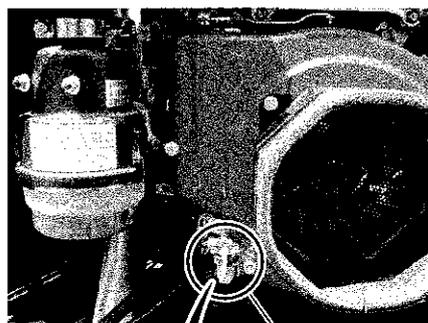
テスリ

補助ステップ

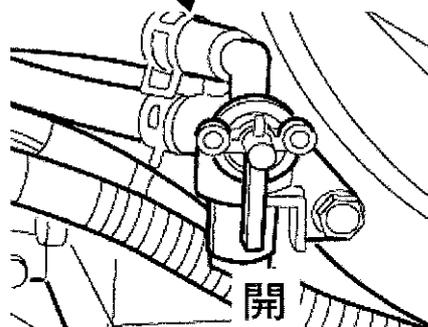
運転について

始動のしかた

- 1 燃料コックを「開」にします。

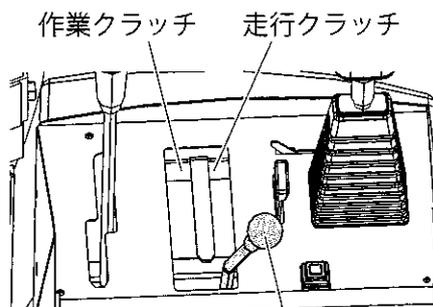


燃料コック



開

- 2 作業クラッチ、走行クラッチを「切」にします。



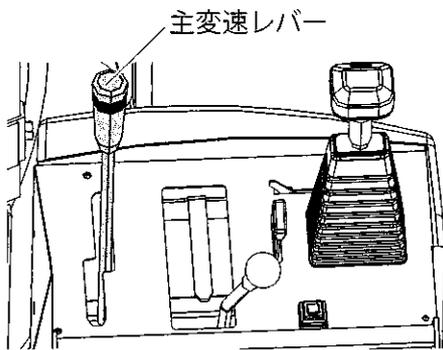
作業クラッチ 走行クラッチ

クラッチレバー

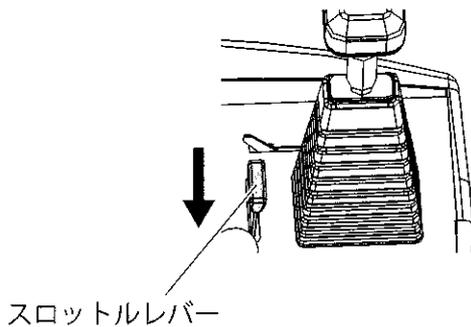
お知らせ

- ・クラッチが「切」になっていないと、スタータが作動しない構造となっています。

3 主変速レバーを「中立」位置にします。

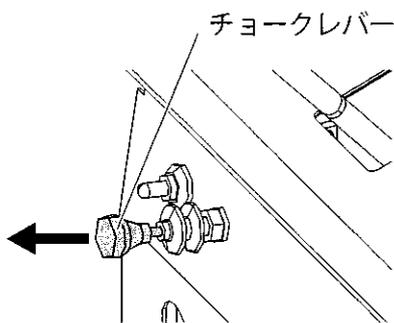


4 スロットルレバーを図のように「低速」から「高速」の方向に約 1/3 開いた位置にします。



5 チョークレバーを引きます。

- 寒いときやエンジンが冷えているときは、いっぱいに引いてください。
- 暖かいときや運転停止直後に再始動するときは、半分引くか、もしくは引かないでください。



6 エンジンスイッチを「START」位置に回します。

取扱上の注意

- スタータは大電流を消費します。10 秒以内で始動しない場合は、一度エンジンスイッチを「STOP」位置に回して、1 分以上休止してから再度始動させてください。

7 エンジン始動後、チョークレバーを戻します。

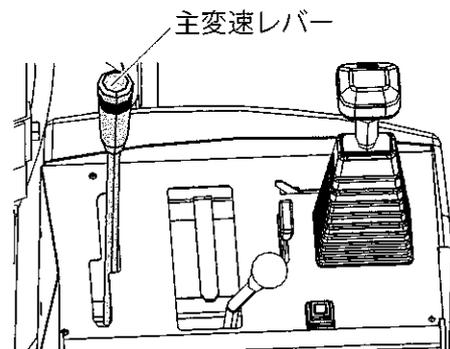
- チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に戻し、最後には必ず完全に戻してください。

発進のしかた

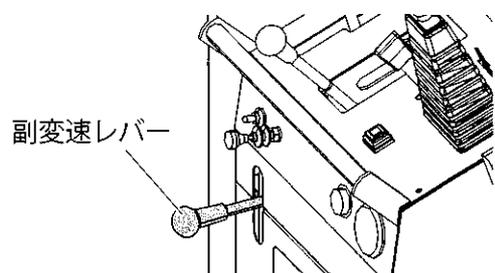
注意

! 副変速レバーが「高速」の位置にある場合は、必ず主変速レバーを「中立」位置にしてください。
必ず実行
* 急発進して事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 主変速レバーを「中立」位置にします。

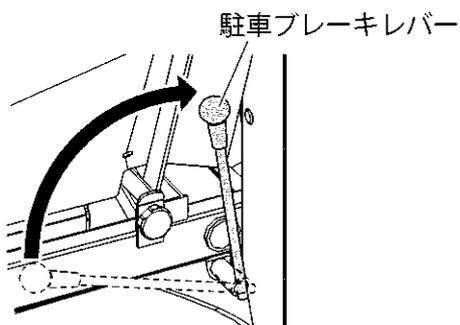


2 副変速レバーを「低速」または「高速」にします。(「**■**変速レバー」(→ p.15))

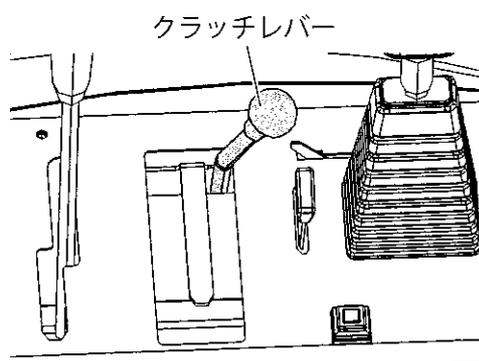


使いかた
運転のしかた

- 3** 駐車ブレーキレバーを前方に倒して、駐車ブレーキを解除します。



- 4** クラッチレバーを走行クラッチ側にして「入」にします。



- 5** 主変速レバーを進む方向にゆっくり倒します。(「**■**変速レバー」(→ p.15))

走行のしかた

⚠ 警告

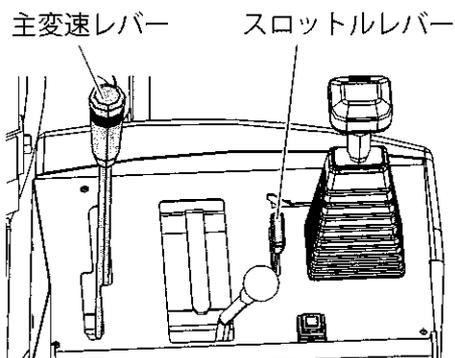


禁止

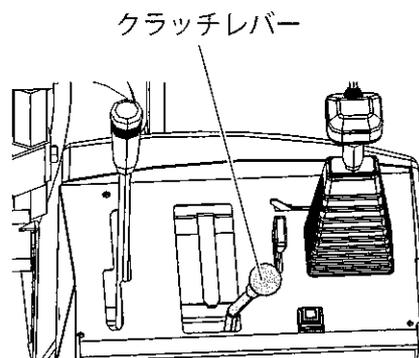
傾斜地では、副変速レバーの「高速」「低速」への切り換えは絶対にしないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1** 走行中は、主変速レバーとスロットルレバーで速度を調整します。

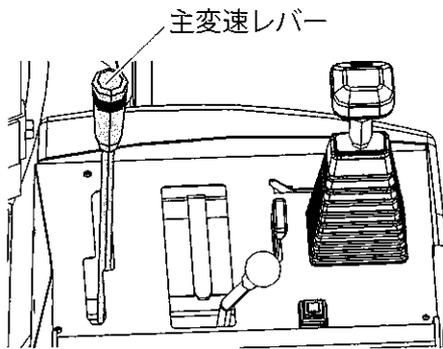


- 2** 副変速レバーの「高速」と「低速」の切り換えは、走行クラッチを「切」にした状態で行ってください。

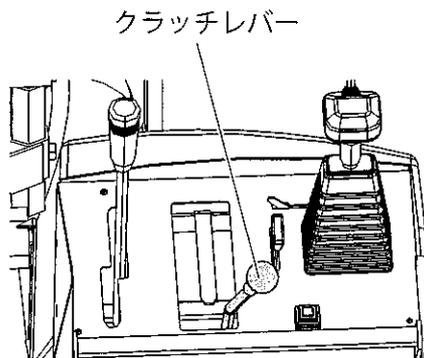


停止のしかた

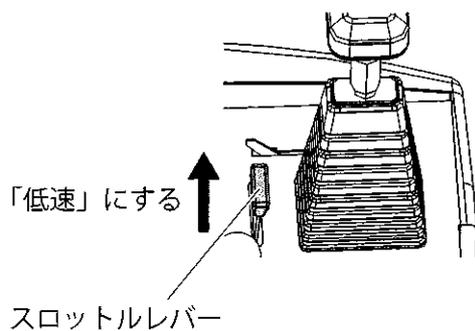
- 1** 主変速レバーを「中立」位置にします。



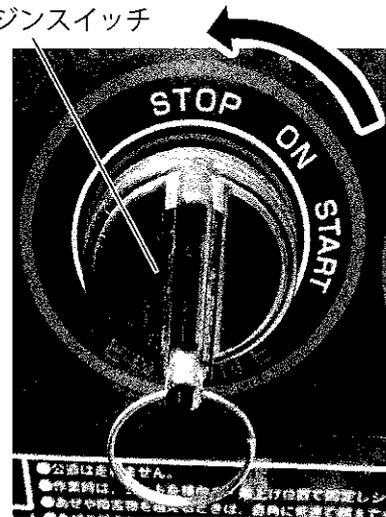
- 2** 走行クラッチを「切」にします。



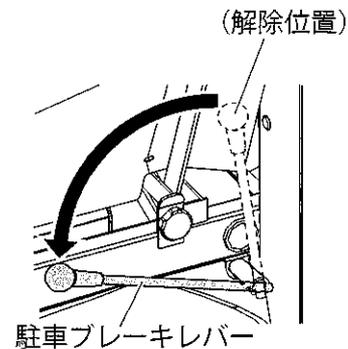
- 3** スロットルレバーを「低速」にして、エンジンスイッチを「STOP」にします。



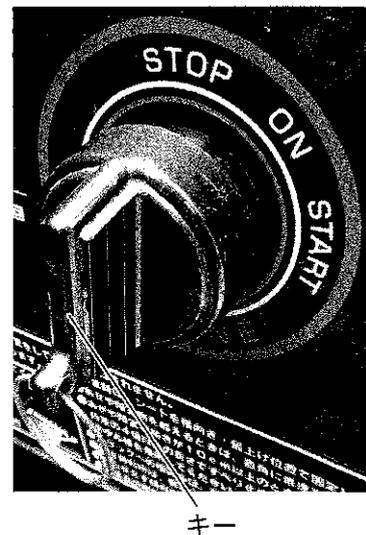
エンジンスイッチ



- 4** 駐車ブレーキレバーを後方に倒して、駐車ブレーキを入れます。

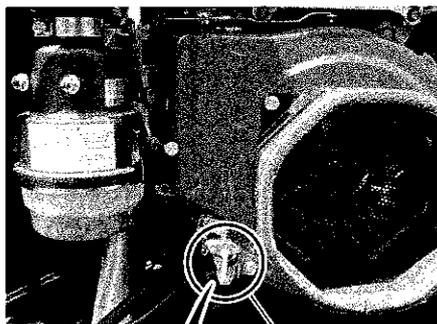


- 5** キーを抜きます。

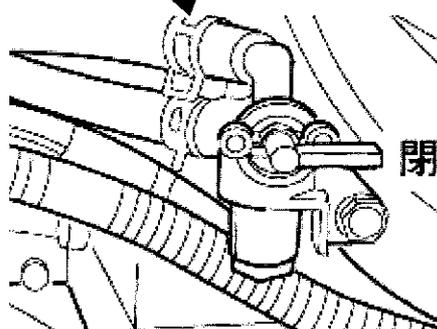


使いかた
運転のしかた

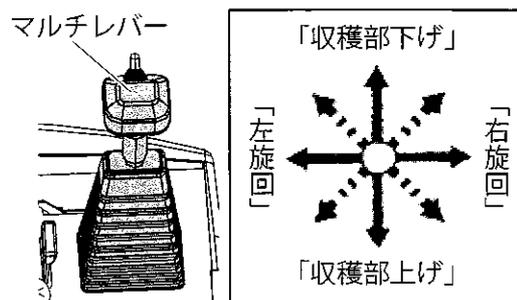
6 燃料コックを「閉」にします。



燃料コック



2 旋回したい方向にマルチレバーを倒します。



- ・マルチレバーは軽く倒すとクラッチが切れ、それから旋回用ブレーキが効き始めます。
- ・強く倒すと、ブレーキが完全にロックされ片側のゴムクローラが逆転して、その場旋回（スピントーン）となります。
- ・レバーの倒し量に応じて、緩やかな方向修正からその場旋回まで、条件に合わせて操作してください。
- ・緩やかな方向修正の場合は、左・右へ軽く倒してください。
- ・その場旋回の場合は、左・右いっぱい倒してください。

旋回のしかた

⚠ 危険



旋回する場合は、機体の前後左右に十分注意して行ってください。

必ず実行

特にその場旋回のときは、後方が大きく動くので後方の確認を十分に行ってください。

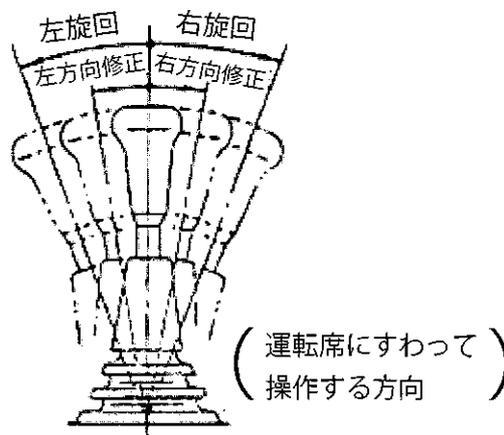
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



その場旋回をする場合は、必ず「低速」に切り換えて行ってください。

必ず実行

* 「高速」でのその場旋回は、大変危険な上、機械にも大きな負担がかかり、故障の原因となります。



1 副変速レバーを「低速」にします。

(「■変速レバー」(→ p.15))

- ・副変速レバーを「高速」で使用する場合は、ゴムクローラが逆転しない程度にマルチレバーを軽く倒して大きく回ってください。小さく回る必要がある場合は、副変速レバーを「低速」にしてから、その場旋回（スピントーン）を行ってください。

傾斜地の駐車

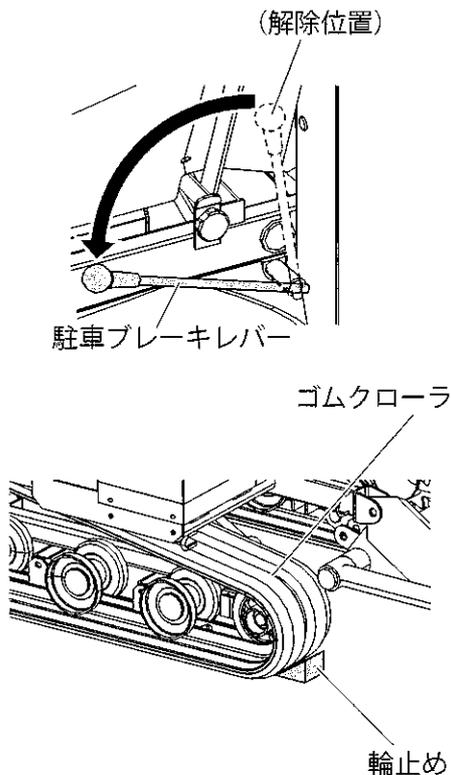
警告



必ず実行

傾斜地に駐・停車するときは、駐車ブレーキをかけ、ゴムクローラに輪止めをしてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



トラックへの積み・降ろし

危険



必ず実行

トラックへの積み・降ろしをするときは、ゴムクローラの土を除去してください。ゴムクローラに土が付着すると滑りやすくなり危険です。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

基準に合った滑り止め付きアユミ板を使用してください。

* 転倒して事故・大ケガにつながる恐れがあります。

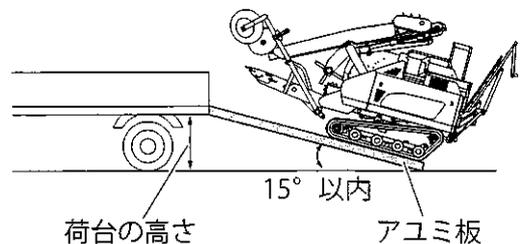
危険



必ず実行

アユミ板は傾斜が 15° 以内またはトラックの荷台高さの 3.5 倍以上の長さのものを使用してください。

傾斜がきつくなると大変危険です。



* 転倒して事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 トラックが移動しないよう、しっかりとブレーキをかけます。
- 2 丈夫な滑り止め付きのアユミ板を、ゴムクローラのドレッドに合わせ、確実に固定します。

アユミ板推奨基準仕様

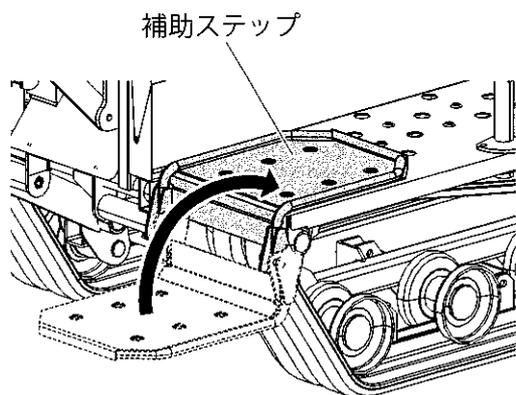
全長 (mm)	トラックの荷台の高さの 3.5 倍以上
全幅 (mm)	380mm 以上
数量	2 枚
最大積載質量 (kg)	2 枚組で 1500kg 以上

- 3 周囲に人がいないことを確認します。
- 4 HGX100 の場合は、後方の昇降コンテナ台とカラコンテナ台を折りたたみます。(→ p.29 ~ 31)
HGX100F の場合は、固定コンテナ台を取外します。(→ p.31)
- 5 収穫部は前後のバランスを見ながらアユミ板に接触しない程度に持ち上げます。前後のバランスを見ながら、持ち上げ量を調整します。

使
い
か
た

運
転
の
し
か
た

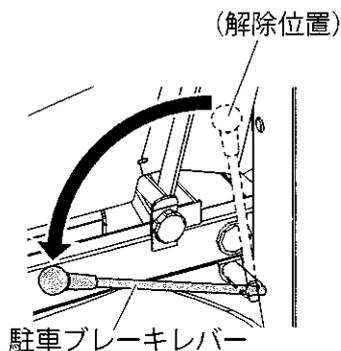
6 補助ステップを格納します。



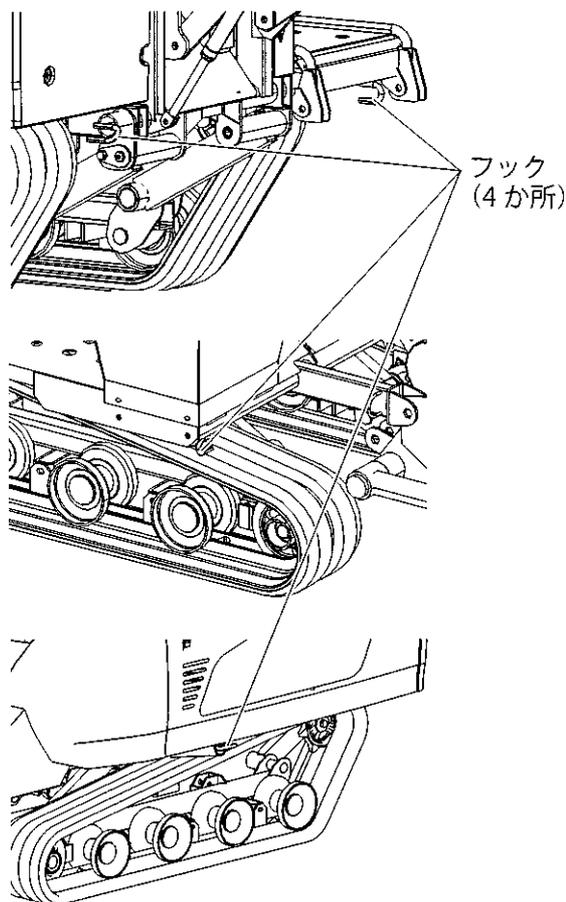
7 機械をアユミ板にまっすぐ合わせ、「低速」で積み込みをします。

⚠ 警告	
	<p>副変速レバー「高速」での積み込み、積み降ろしは絶対にしないでください。</p> <p>禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。</p>
	<p>アユミ板の途中で方向を変えたり、停止したりしないでください。</p> <p>禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。</p>
	<p>積み込みは必ず「前進」で、積み降ろしは必ず「後進」で行ってください。</p> <p>必ず実行 機械は構造上、重心が前方にあります。</p> <p>* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。</p>

8 積み込みが終わったら駐車ブレーキレバーを後方に倒して、駐車ブレーキを入れます。



9 機械のフックにロープをかけてしっかりと固定します。



10 積み降ろしについては、積み込みと同じ要領で行います。

圃場への出入り

⚠ 危険



傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は乗車しないでください。

禁止

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 警告



傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。

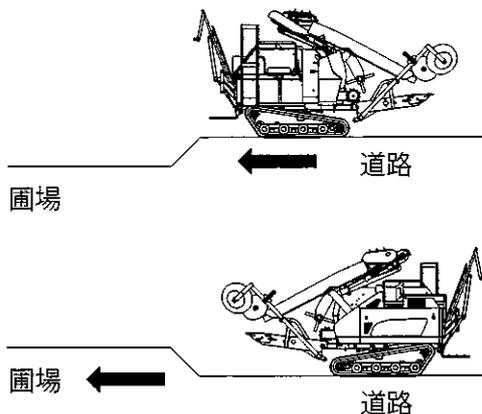
必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 圃場に入るときは、必ず速度を下げ、圃場に対して直角に進みます。

- 掘取りコンベアを地面と接触しない程度に下げてください。

- 圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ります。また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出ます。機械は構造上、重心が前にあります。



傾斜地での走行

⚠ 危険



傾斜地では、機体傾き自動スイッチを絶対に「入」にしないでください。

禁止

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



ブザーが鳴るような傾斜地では、転倒の危険があるので走行しないでください。

禁止

機械には、傾斜警報装置が装備されています。

一定角度（約14°）以上の傾斜になるとブザーで危険を知らせます。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



ブザーが鳴ったら作業を中止し、機械が水平になる場所に移動してください。

必ず実行

機械が水平になるとブザーは止まります。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



傾斜地や悪路では機械に乗車せず歩きながら運転してください。

必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 傾斜地での走行は、速度を下げ安全に運転します。

- 平坦地に比べ特に危険です。

- 前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行します。

- 高速運転時、急発進・急ブレーキ・急旋回はしないでください。

- 傾斜地の上りは前進で行い、下りは後進で走行します。

- 機械は構造上、重心が前にあります。収穫部を降ろし、重心を下げるのも安全走行の有効な手段です。

使
い
か
た

運
転
の
し
か
た

作業の準備

ここでは作業の準備について詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

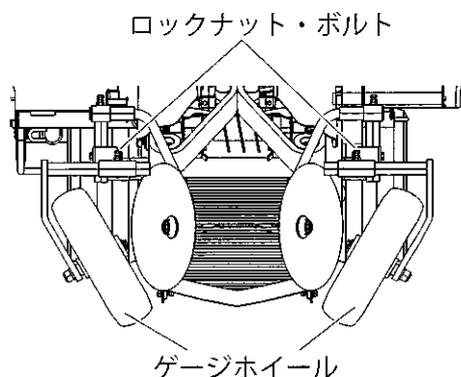
各部の調整

ゲージホイール

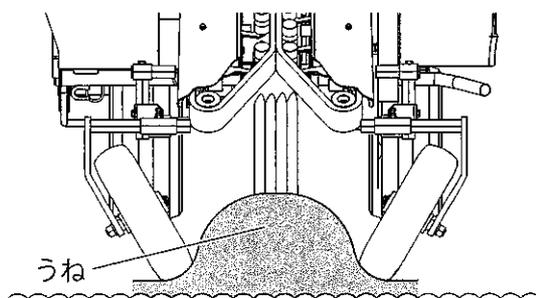
ゲージホイールは、掘取り深さの安定と機械をうねに沿って自動走行させる働きをします。必ずうね幅に合わせて取付け幅を調整してください。

■ 幅の調整

- 1 ゲージホイール左右スライド部のロックナット・ボルトを緩めます。



- 2 ゲージホイールの内側がうねの底の固い部分と同じになるよう左右均等に調整します。



- 3 ねぎがうねの中央にないときには、ゲージホイールを調整します。

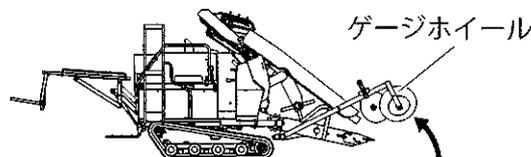
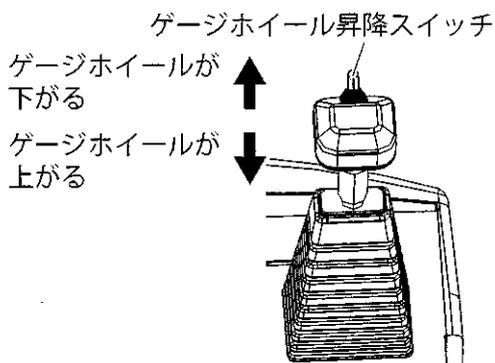
お知らせ

- ・ここでの調整は、収穫作業をするための準備で目安です。

- 4 調整後、ロックナット・ボルトで固定します。

■ 高さの調整

ゲージホイール昇降スイッチを前方に倒すとゲージホイールが下がります。
後方に倒すとゲージホイールが上がります。

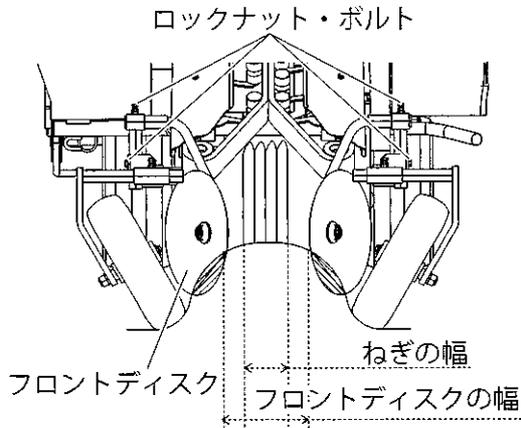


取扱上の注意

- ・収穫作業をする前は、ゲージホイールを一番上まで上げてください。

フロントディスク

フロントディスクは、ねぎをベルトで挟持しやすくするために、うねの上部側面の土を取除く働きをします。必ずうねに合わせて調整してください。

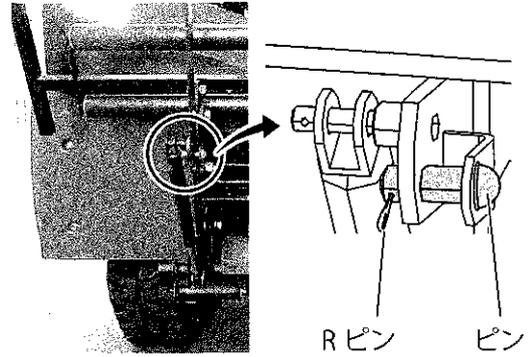


- 1 ロックナット・ボルトを緩めます。
- 2 フロントディスクは、ねぎの幅より広くし、ねぎを傷めない幅にします。
- 3 フロントディスクの深さはフロントディスク直径の 1/3 以内になるように調整します。
お知らせ
・ここでの調整は、収穫作業をするための準備で目安です。
- 4 調整後、ロックナット・ボルトで固定します。

昇降コンテナ台 (HGX100)

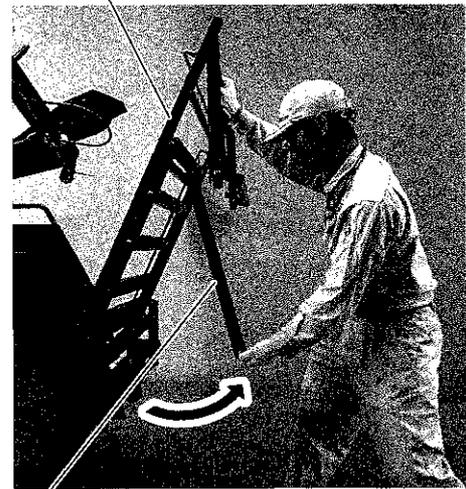
昇降コンテナ台を次の手順で開いてください。

- 1 ピンと R ピンの位置を確認します。



- 2 昇降コンテナ台を支えながら、ピンと R ピンを外し、コンテナ台ステーも外します。

昇降コンテナ台

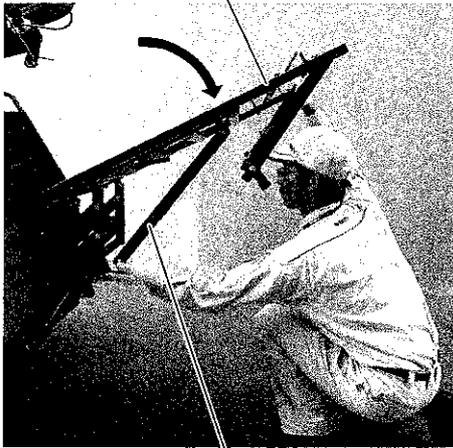


使いかた

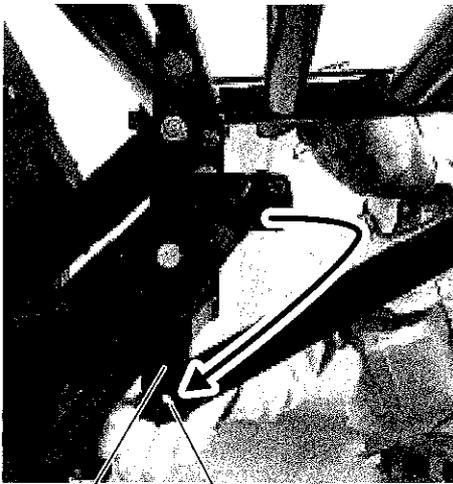
作業の準備

- 3** 昇降コンテナ台を下げながら、コンテナ台ステーを下側ステーの固定穴に位置を合わせます。

昇降コンテナ台

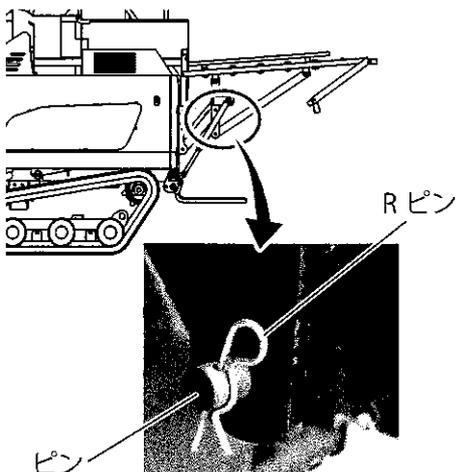


コンテナ台ステー



下側ステー 固定穴

- 4** 位置を合わせたら、ピンとRピンで固定します。



- 5** 昇降コンテナ台を格納するときは、逆の手順で格納します。

カラコンテナ台 (HGX100)

カラコンテナ台を次の手順で開いてください。

⚠ 注意

- !** 移動するときは、昇降コンテナ台とカラコンテナ台を格納してください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります

- !** 各コンテナ台は最大積載量以下で前後左右バランスよく積んでください。

必ず実行 * 片荷での積載は破損の原因となります。

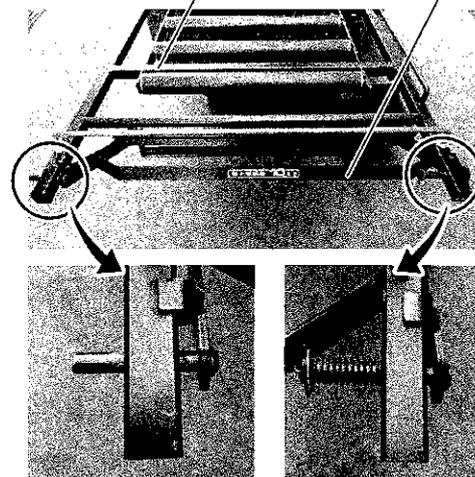
取扱上の注意

- 最大積載重量 (昇降コンテナ台 100kg、カラコンテナ台 10kg) を超えないようにしてください。

- 1** カラコンテナ台の固定位置を確認します。

(昇降コンテナ台)

カラコンテナ台

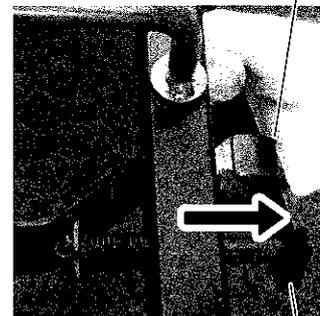


左側支点部

右側支点部

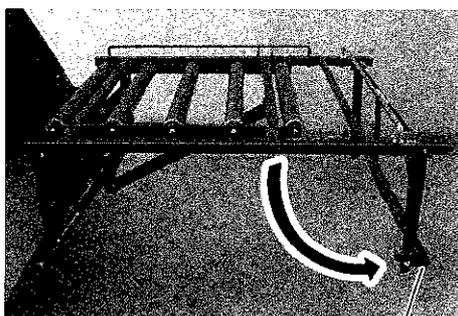
- 2** カラコンテナ台支点部を横スライドさせ、昇降コンテナ台から固定を解除します。

固定部



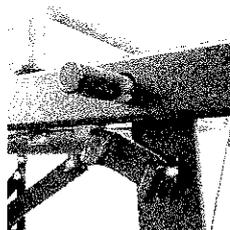
カラコンテナ台支点部

3 カラコンテナ台を下方向へ回転します。

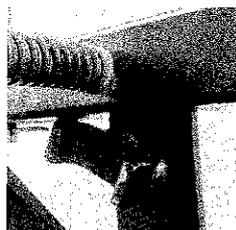


カラコンテナ台

固定部は下図のような状態になります。

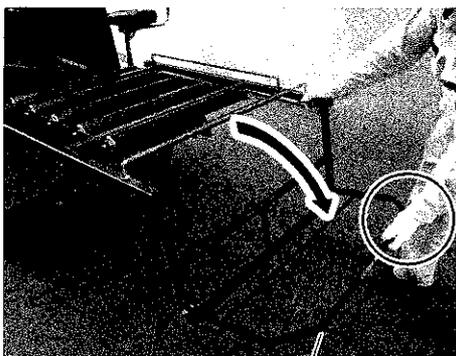


左側固定部



右側固定部

4 下図の部位を持ってカラコンテナ台を開きます。



カラコンテナ台

注意



カラコンテナ台は、図示した部位を持って開閉してください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります

5 カラコンテナ台を格納するときは、逆の手順で格納します。

固定コンテナ台 (HGX100F)

固定コンテナ台を次の手順で取付けてください。

注意



固定コンテナ台には乗らないでください。

* 転落してケガをする恐れがあります。

禁止



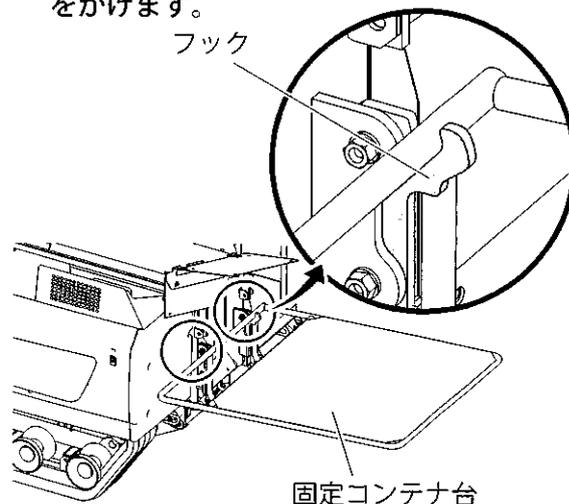
移動するときは固定コンテナ台を取外してください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります

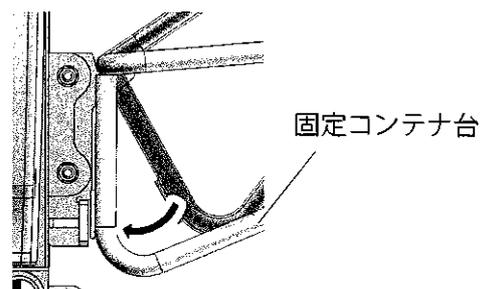
取扱上の注意

・ 固定コンテナ台は最大積載量以下で、前後左右バランスよく積んでください。片荷での積載は破損の原因となります。

1 メインフレーム後方のフックにコンテナ台をかけます。



2 固定コンテナ台を矢印の方向に回転し、固定します。



3 固定コンテナ台を取外すときは、逆の手順で取外します。

固定コンテナ台の使いかた

収容方法に合わせて、使用してください。

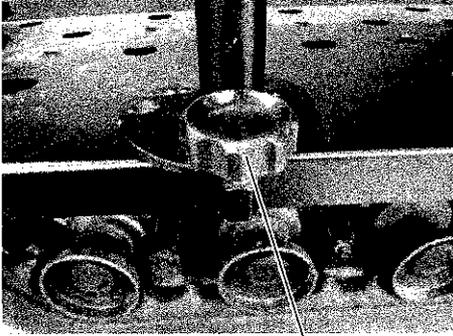
使いかた

作業の準備

シート

■ 向きの調整

- 1 ノブボルトを外して、シートの向きを変更します。

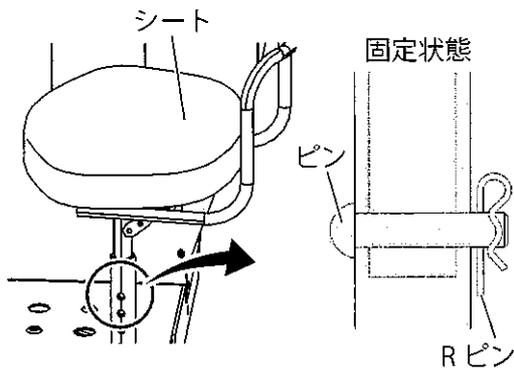


ノブボルト

- 2 変更した後は、必ずノブボルトで固定します。

■ 高さの調整

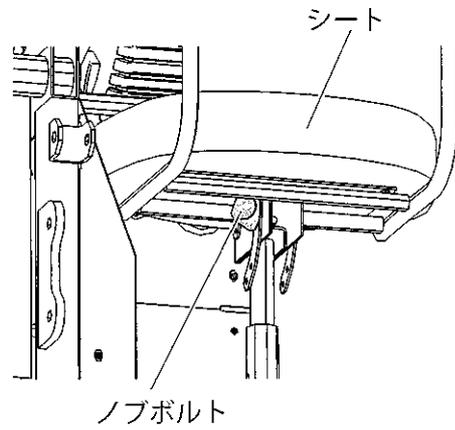
- 1 ピンとRピンを外して、楽な作業姿勢になるようにシートの高さを調整します。



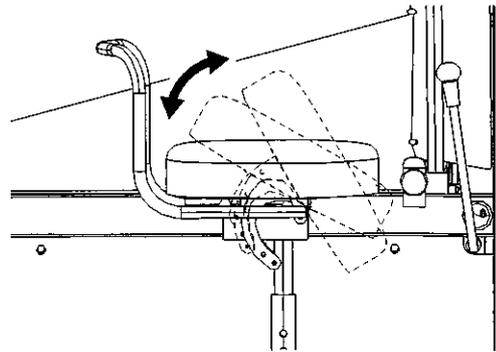
- 2 調整後は、ピンとRピンで確実に固定します。

■ 角度の調整

- 1 ノブボルトを外して、シートの角度を調整します。



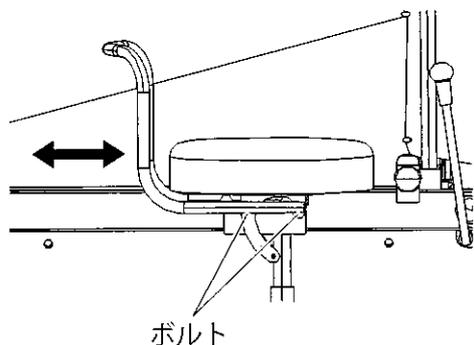
- ・作業姿勢に合わせてシートの角度が通常的位置と傾いた位置とで3段階に調整できます。



- 2 調整後は、ノブボルトを締めて固定します。

■ 前後の調整

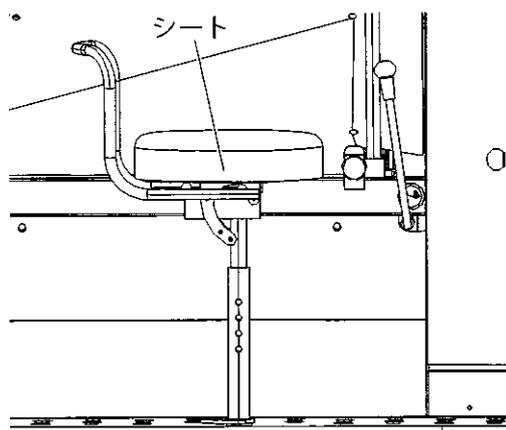
- 1 ボルトを外して、シートの前後の位置を調整します。



- 2 調整後は、ボルトで固定します。

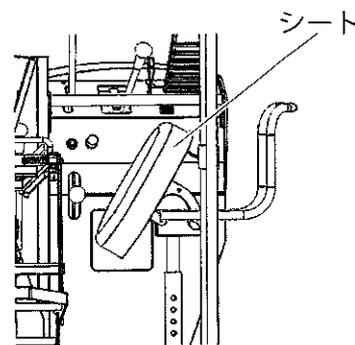
■ 移動時

- 1 シートの向きを前方に向けます。(「■向きの調整」(→ p.32))
- 2 シートの角度を水平にします。(「■角度の調整」(→ p.32))



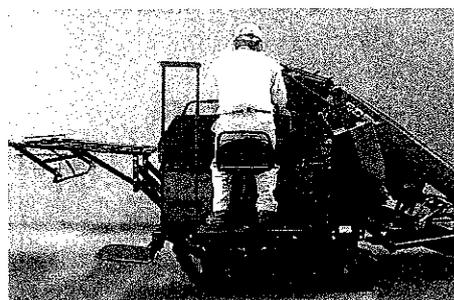
■ 作業時

- 1 ピンとRピンを外して、シートの向きを作業台側に向けます。(「■向きの調整」(→ p.32))
- 2 変更した後は、ピンとRピンで確実に固定します。
- 3 シート高さおよびシートの角度を、作業者に合う位置に合わせます。(「■角度の調整」(→ p.32))



作業時の基本姿勢

- 4 作業時は、しっかりとシートに体を保持させます。

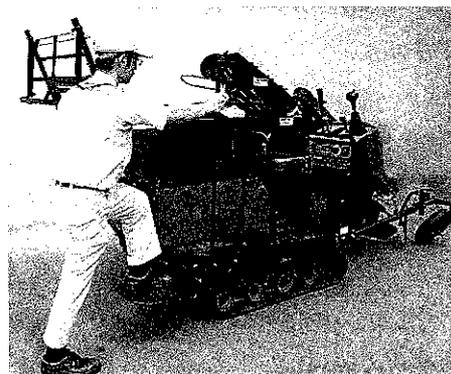


⚠ 警告



作業位置から離れるときは、必ず機械の走行を止めてください。

必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作物と圃場の条件

作物の条件や圃場の条件によっては、正常な収穫作業ができないことがあります。

作業前に作物の状態や圃場の条件を確認してから作業してください。

警告



夜間は作業しないでください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺、うね周辺にある枯れたねぎや雑草などを取除くときは、必ずエンジンを停止させて行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺に堆積している枯れたねぎや雑草などは、きれいに取除いてください。
* 火災が発生する恐れがあります。



必ず実行

収穫作業前は、うね周辺の枯れたねぎや雑草などを取除いてください。
* 火災が発生する恐れがあります。



作物の条件

機械の収穫に適する作物の条件は次のとおりです。

(a) 作物

- 白ねぎ（根深ねぎ）
- うね立て栽培した白ねぎ
- 品種によっては収穫できないねぎがあります。
 - ・ 曲がりねぎ
 - ・ 下仁田ねぎ

お知らせ

- ・ 腐り始めた作物、曲がった作物、病虫害にかかっている作物は収穫しないでください。

(b) 作物の水分

作物の葉の水分状態によっては正常な作業ができません。よく乾燥させてから作業してください。

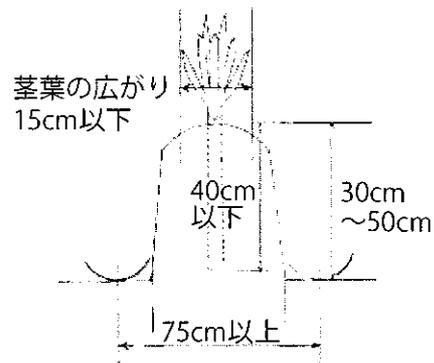
取扱上の注意

- ・ 雨天の日には作業しないでください。
機械の故障につながる恐れがあります。

圃場の条件

収穫に適する圃場の条件は次のとおりです。あくまで目安です。条件によっては収穫できないことがあります。

- (a) 植付条件 : 1条
- (b) うね間 : 75cm 以上
- (c) うね高さ : 30 ~ 50cm
- (d) 圃場傾斜角度 : うね方向で 3° 以内



取扱上の注意

- ・ 小石が多い圃場では作業しないでください。小石が噛み込んでコンベアが外れたり、コンベアフレームが破損したりすることがあります。やむをえず作業する場合は、コンベアの外れがないか確認しながら作業してください。

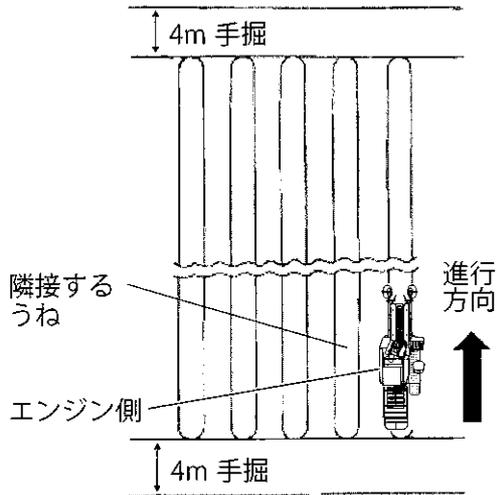
お知らせ

- ・ うね谷に水がたまっているときは、作業できないことがあります。事前に圃場の状態を確認してください。
- ・ 気温が極端に低くなると、ねぎが割れやすく傷めることがあります。

枕地の確認と作業準備

収穫機の作業では圃場の両端に収穫機が旋回するための枕地が必要です。

あらかじめ圃場の両端約 4m を手などで掘取ってください。圃場の周囲が壁の場合は枕地が余計に必要です。



収穫作業は上図のように、機械の進行方向を隣接するうねが、エンジン側になるように作業することをお勧めします。

機械への乗り降りや、収穫したねぎの運搬が容易になります。

⚠ 注意



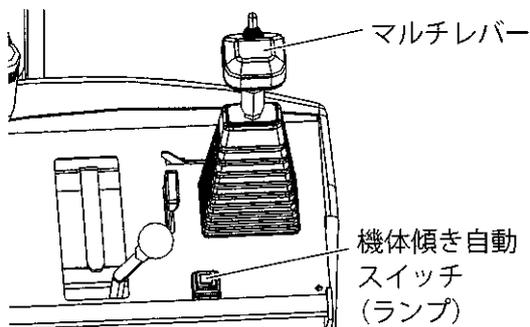
共同作業者との掘取り作業は、互いに合図をしながら安全を確認して、操作してください。

必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

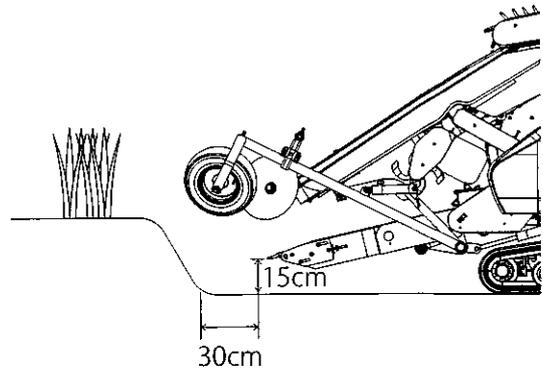
1 機体傾き自動スイッチを「入」にします。

⇒ 機体傾き自動スイッチのランプが点灯し、自動制御状態になります。

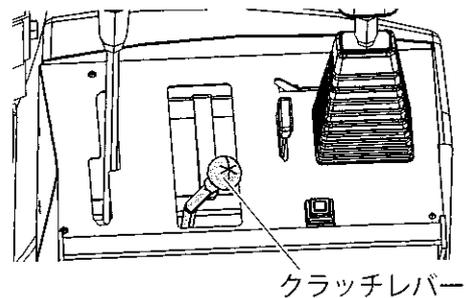


2 作物のうね中心と、コンベアおよび挟持搬送ベルト中心が合うように圃場に入り、マルチレバーを前方に倒します。

3 コンベアを地面より 15cm の高さで止めます。



4 掘はじめ手前約 30cm で作業クラッチレバーを「切」にして、一旦停止して作業の準備をします。

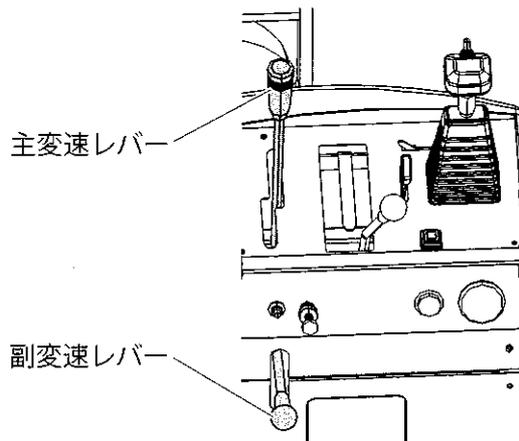


・ 構造上クラッチレバーは、手を放すと走行側に戻ります。

使いかた

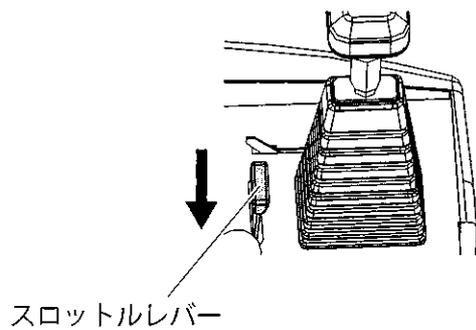
作業の準備

- 5** 副変速レバーを下げて「低速」に、主変速レバーを「中立」位置に合わせます。



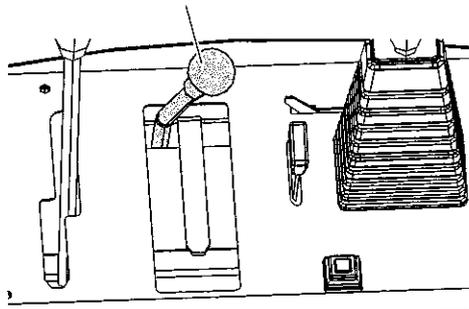
- 6** スロットルレバーを目安として「低速」から「高速」の方向へ約 1/2 ~ 2/3 開いた位置にします。

- ・ 作業条件に合わせスロットルレバー位置を調整してください。



- 7** クラッチレバーを作業クラッチ側の「入」位置にします。

クラッチレバー



⇒ 作業の準備は完了です。

- 8** 収穫作業を開始します。

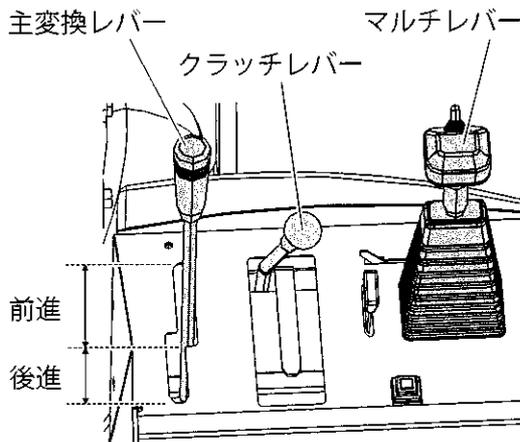
作業のしかた

ここでは作業のしかたについて詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

収穫作業

- 1 クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒します。

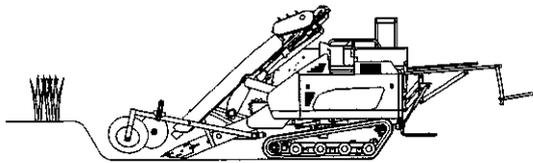
⇒ 収穫部の作動と同時に低速走行を開始します。



取扱上の注意

- ・ 作業クラッチが「入」のときに、主変速レバーを後方側に倒すと作業クラッチが「切」に戻るようになっていきます。
- ・ 主変速レバーが後進側になっているときは、作業クラッチは入りません。そのときに作業クラッチを無理に入れようとすると故障の原因になります。絶対に行わないでください。

- 2 マルチレバーを前方に倒し、コンベア先端をうねに入れます。



取扱上の注意

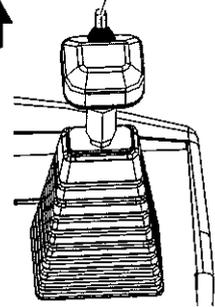
- ・ エンジン回転がスロットル 1/2 より低いと、バッテリー充電ができなくなる恐れがあります。バッテリーが放電し電圧が下がると、水平制御のコントローラが「OFF」状態となります。また HST に過負荷がかかり HST 故障の原因となります。
- ・ コンベアを急にうねに入れすぎるとコンベアに無理な力がかかり、コンベアが止まったり、ゴムクローラがその場でスリップしたりします。ゆっくりと作業してください。

- 3 コンベアがうねに入って機体が水平になり、掘取りシリンダが完全に縮まったら、マルチレバーから手を離し「中立」にします。

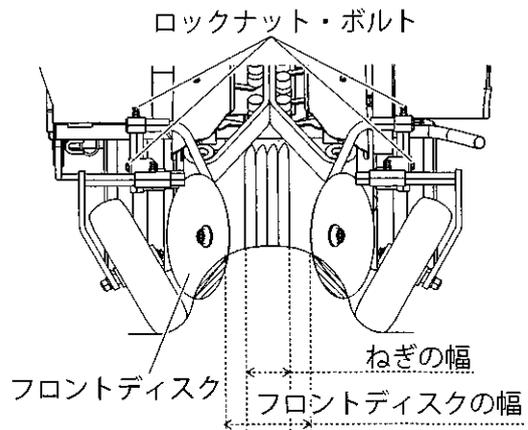
- 4 クラッチレバーを「切」にし、一旦停止します。

- 5 ゲージホイール昇降スイッチで、ゲージホイールをうねの底につくまで下げます。そのとき、ゲージホイールの左右の位置を確認し、必要な場合は調整します。

ゲージホイール昇降スイッチ
ゲージホイールが下がる ↑



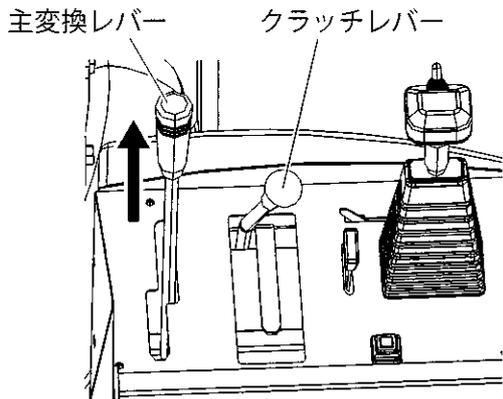
- 6 フロントディスクがねぎを傷めずにうねの上部側面の土が取除けるように、フロントディスクの幅と高さを調整します。(「フロントディスク」(→ p.29))



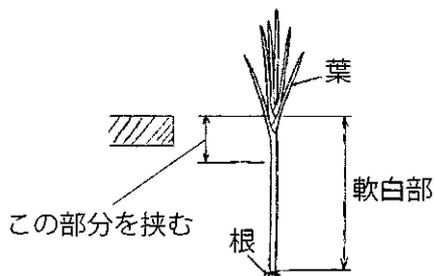
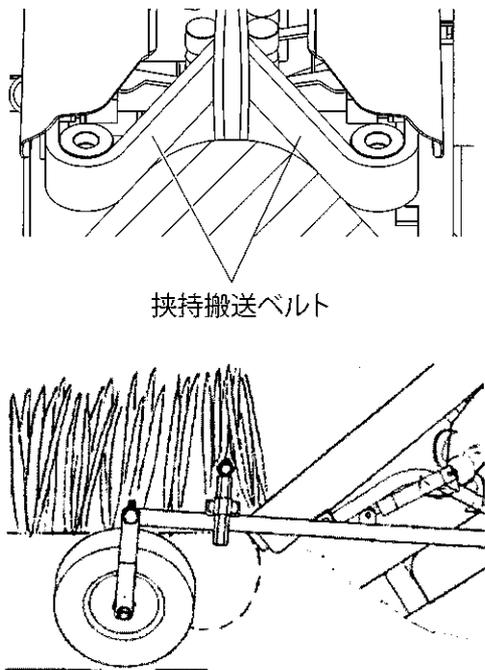
使いかた

作業のしかた

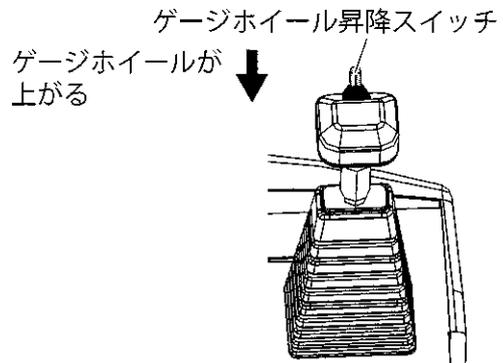
- 7** クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒します。



- 8** ゲージホイール昇降スイッチで、挟持搬送ベルトがねぎ軟白部を挟むように上下に調整します。
- 深く入れすぎると土を挟んでストップすることがあります。

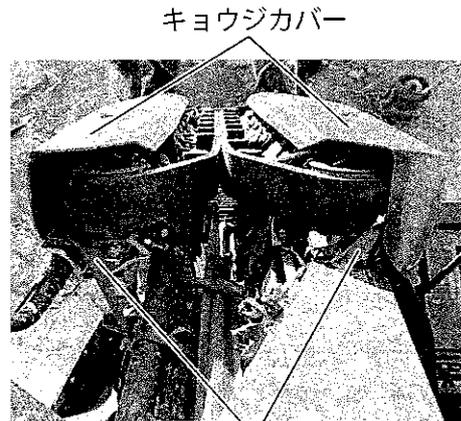


- 9** 掘取り深さが浅く、ねぎを切るときには、ゲージホイール昇降スイッチでゲージホイールをわずかに上げて掘取り深さを深くします。



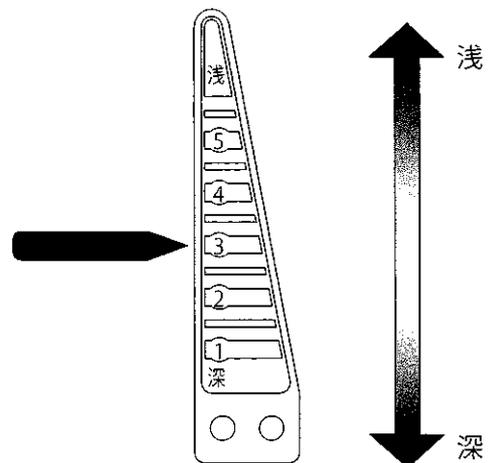
取扱上の注意

- 挟持搬送部後方に堆積した枯れたねぎや雑草などを定期的に掃除してください。
- 清掃後は必ずキョウジカバーを取付けてしてから作業をしてください。



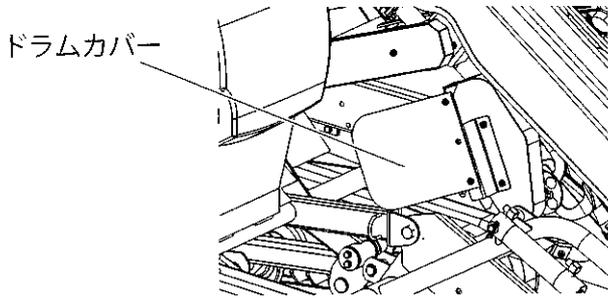
枯れたねぎや雑草など

- 掘取り深さの目安として深さゲージを使用してください。



土落としドラムの高さ調整

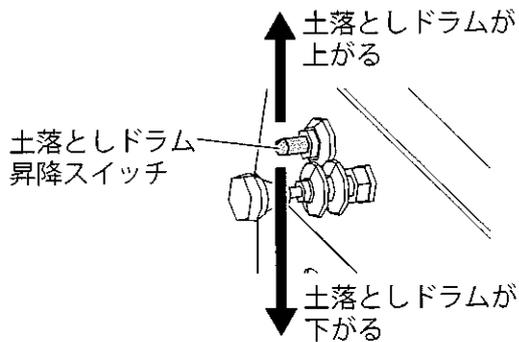
土落としドラムは、ねぎの根に付いた土を落とし、ねぎとねぎを分離する働きをします。



取扱上の注意

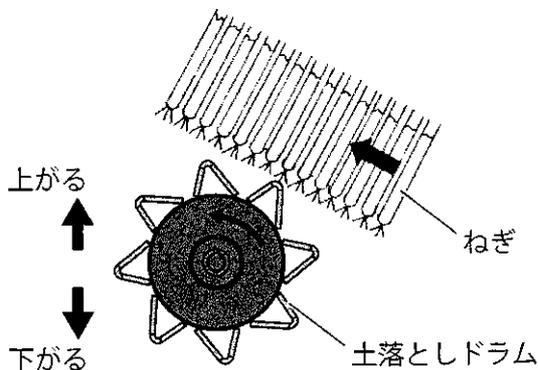
- 必ずドラムカバーが取り付けされた状態で作業してください。

- 1 ねぎの根に付いた土の具合に合わせて土落としドラム昇降スイッチで土落としドラムの位置を調整します。



取扱上の注意

- 土落としドラムの高さは、ねぎを傷めないように調整してください。この作業は、その都度必要になります。
- 土落としドラムは消耗品です。消耗時は交換してください。(「消耗品一覧」(→ p.73))



土落としローター

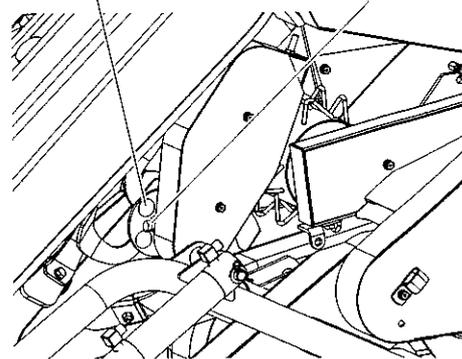
土落としローターは、コンベアで掘上げた土を砕いてねぎを搬送する働きと、ねぎの根に付いた土を落とす働きをします。

お知らせ

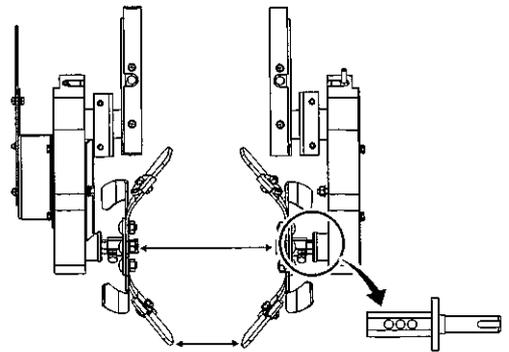
- 土落としローターの取り付け位置は、最大幅位置にしています。

- 1 ロックナットを緩めた後に、押しボルトを緩めます。(左右1か所ずつ、合計2か所)

土落としローター 押しボルト、ロックナット



- 2 土落としローターの取り付け位置を必要な幅に調整し、押しボルトで固定します。
 - 3段階の調整が可能です。



- 3 押しボルトで固定後、必ずロックナットも固定してください。

取扱上の注意

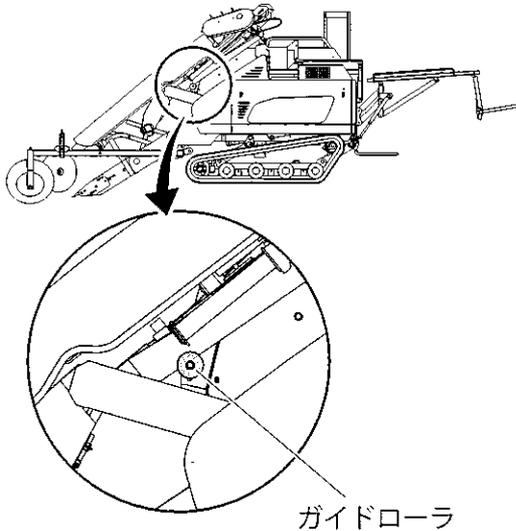
- 土落としローターとローターゴムは消耗品です。消耗時は交換してください。(「消耗品一覧」(→ p.73))

使いかた

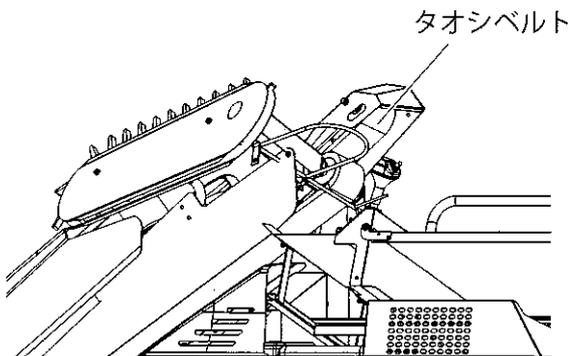
作業のしかた

タオシベルト

- 1 ガイドローラに付着した土や異物はこまめに除去します。
 - ・土や異物をそのままにしておくと、ベルトの脱落や破損につながります。



- 2 タオシベルトを調整します。「整列搬送タオシベルトの張り調整」(→ p.58 ~ 59)



- 3 収穫作業が安定したところで収穫作業速度を主変速レバーとスロットルレバーで調整します。主に主変速レバーで調整します。「**■**変速レバー」(→ p.15)

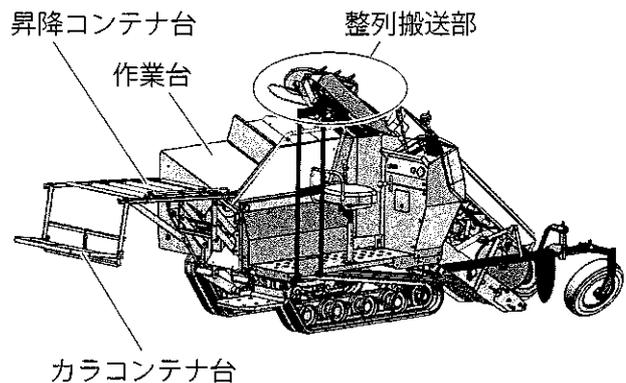
取扱上の注意

- ・ねぎを傷めない作業速度で収穫してください。

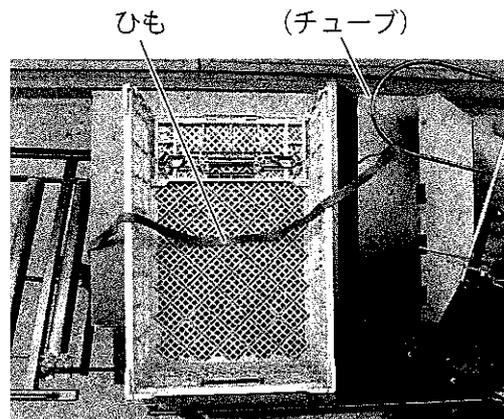
収容作業

⚠ 注意

-  整列搬送部に手を入れないでください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
禁止
-  作業台には乗らないでください。
* 転落してケガをする恐れがあります。
禁止



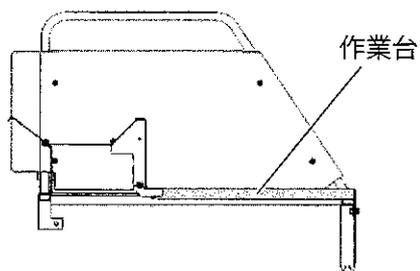
- 1 収穫されたねぎは、整列搬送部で横に倒されます。作業台のV形状のところに積み重ねられる形でストックできます。
- 2 ストックされたねぎは、あらかじめ作業台の上に用意したコンテナか収穫布または、ひもの上に載せ結束、または収容します。
 - ・上記の収容方法はあくまで参考例です。収容方法に合わせて使用します。ひもを使用する場合は、写真のようにひもを配置します。



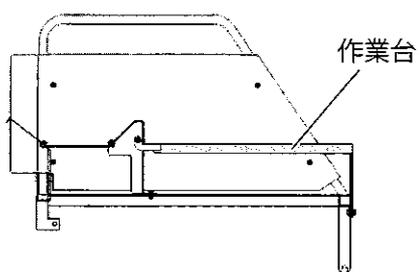
作業台

作業台は2段階の高さ調整が可能です。
収容方法に応じて高さを設定してください。

「低」位置の場合



「高」位置の場合



昇降コンテナ台・カラコンテナ台 (HGX100)

昇降コンテナ台とカラコンテナ台の使用例を記載します。

⚠ 注意

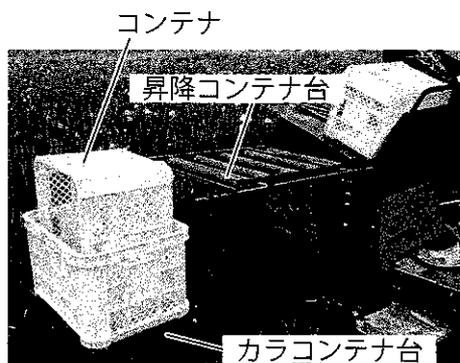


昇降コンテナ台とカラコンテナ台には乗らないでください。

禁止 * 転落してケガをする恐れがあります。

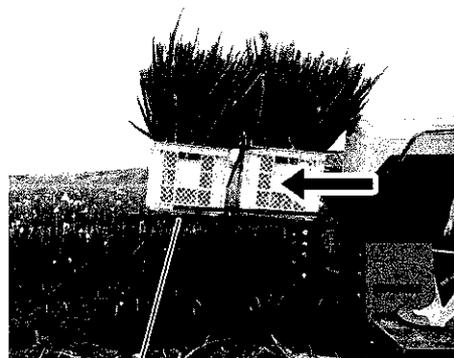
■ 20kg コンテナの場合

- 1 収容に使用するコンテナをカラコンテナ台に用意します。



- 2 コンテナにねぎを収容します。

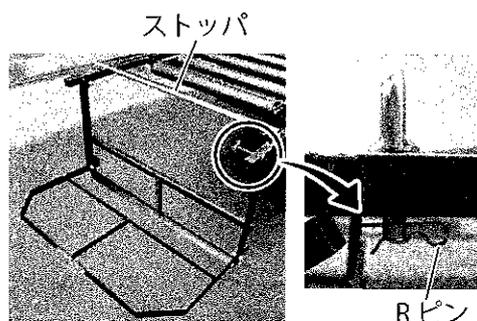
- 3 昇降コンテナ台に載せて、後方へ移動させます。



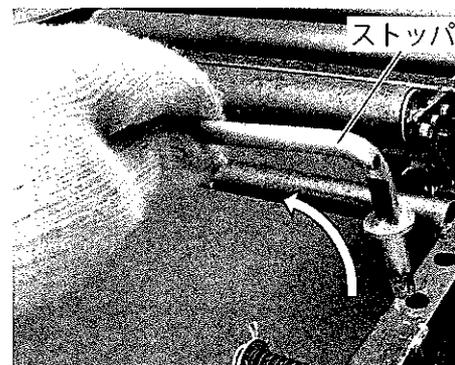
昇降コンテナ台

- 4 昇降コンテナ台後方のストッパを解除します。

- (1) ストッパ右側のRピンを抜きます。



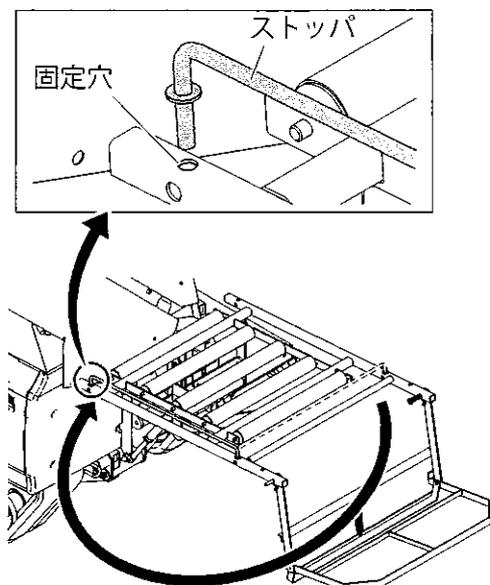
- (2) ストッパを抜きます。



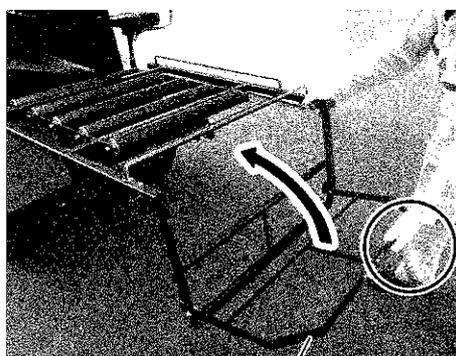
使いかた

作業のしかた

- (3) ストッパの左側を支点にしてストッパを回し、昇降コンテナ台左側の固定穴に差し込み固定します。



- 5** 写真の丸で囲んでいる部位を持ってカラコンテナ台を閉じ格納します。カラコンテナ台の格納方法は、「カラコンテナ台 (HGX100)」(→ p.30 ~ 31) を参照してください。

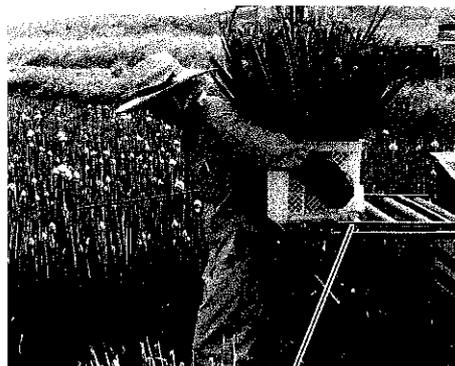


カラコンテナ台

⚠ 注意

! カラコンテナ台は、写真の丸で囲んでいる部位を持って開閉してください。
必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります

- 6** コンテナを昇降コンテナ台から降ろします。

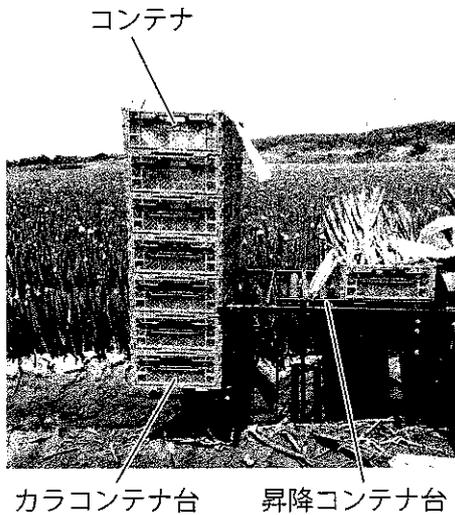


昇降コンテナ台

- 7** 積み降ろし後は、逆の手順で元に戻します。

■ 10kg コンテナの場合

- 1 作業台を「高」位置に設定します。（「作業台」
（→ p.41））
- 2 収容に使用するコンテナをカラコンテナ台
に用意します。



- 3 コンテナにねぎを収容した後、昇降コンテナ
台に積み上げます。

（積載例）

- ・ 2列3段で積載します。



■ 収穫布の場合

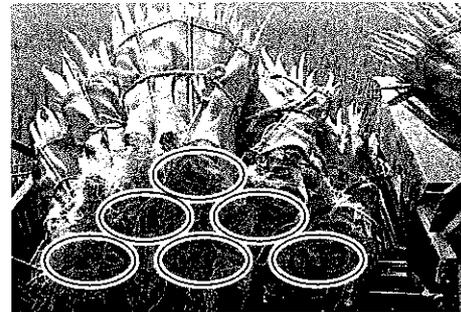
- 1 作業台を「高」位置に設定します。（「作業台」
（→ p.41））
- 2 収容に使用する収穫布をコンテナに入れて、
カラコンテナ台に用意します。



- 3 収穫布でねぎを収容した後、昇降コンテナ
台に積み上げます。

（積載例）

- ・ 3列・2列・1列で6束積載します。



取扱上の注意

- ・ 最大積載重量（昇降コンテナ台 100kg、カ
ラコンテナ台 10kg）を超えないよう注意し
てください。
- 積載オーバーすると、収穫部先端が持ち上
がり、収穫作業に支障が発生します。

使
い
か
た

作
業
の
し
か
た

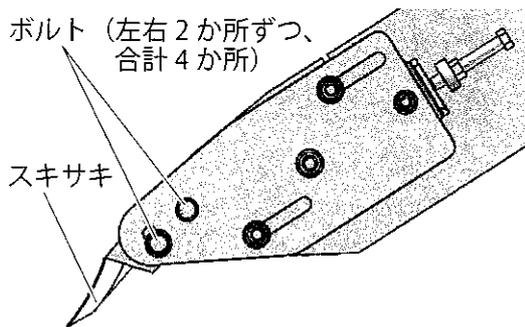
ワンポイントアドバイス

ここでは作業のコツについて詳しく記載しています。
作業中のトラブル時に参照してください。

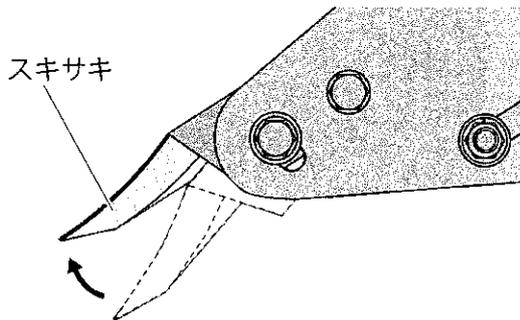
ゴムクローラが滑る

水分を多く含んだうねの条件ではゴムクローラが滑り、機械が進まなくなることがあります。
次の手順で対応してください。

- 1 スキサキを固定しているボルト（左右2か所ずつ、合計4か所）を緩めます。



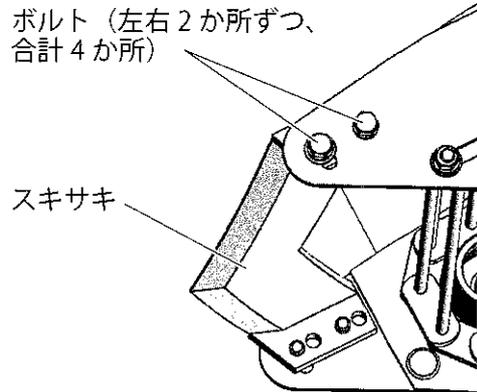
- 2 スキサキの角度を矢印の方向に調整します。



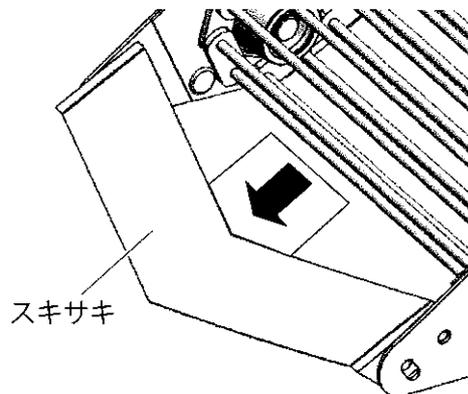
⇒ スキサキへの抵抗が少なくなり、うねの土を押しやすくなります。

- ・ 上記調整で、ねぎを切る場合は、手順**3****4**の調整もしてください。

- 3 スキサキを固定しているボルト（左右2か所ずつ、合計4か所）を外します。

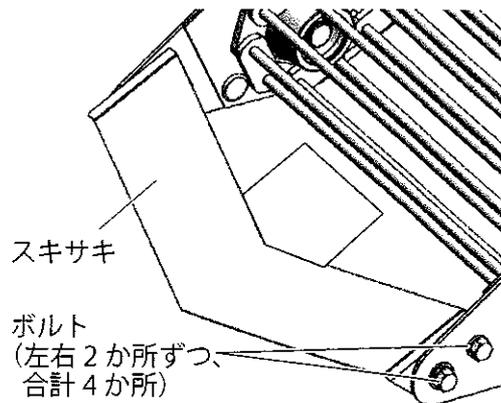


- 4 スキサキの位置を矢印の方向に調整します。2段階の位置調整が可能です。



⇒ スキサキがうねに深く入るようになり、ねぎを切らなくなります。

- 5 スキサキをボルト（左右2か所ずつ、合計4か所）で固定します。



お知らせ

- ・ ゲージホイールを下げて掘取り深さを浅くするのも有効です（「**高さの調整**」（→ p.28））。掘取り深さは、浅くすぎるとねぎを切ることがあります。